

【国際語にもなった「KAROSHI」を韓国の眼から～社会学研究科 DMDP 院生が過労死をテーマとしたシンポジウムで報告～】

韓国中央大学との DMDP 制度( 1)を活用し、昨年度から社会学研究科に在籍しているカン・ミンジョンさん (M2、指導教員：櫻井純理教授) が、研究テーマである「過労死・過労自殺問題」の韓国での実態について、シンポジウムで櫻井教授と共に報告しました。



<カン・ミンジョンさん>



<櫻井純理 教授>

カンさんが発表を行ったのは、2013年6月12日、「過労死110番25周年記念シンポジウム」(主催：大阪過労死問題連絡会、会場：エルおおさか)でのこと。今年は、国内外に「過労死」の存在を知らしめることもなった電話相談「過労死110番」の実施から四半世紀の節目を迎え、2013年6月現在、「過労死防止基本法」を制定する社会運動も展開されています。「過労死社会は変革できるか」をテーマに行われた今回のシンポジウムには、「過労死を考える家族の会」のメンバーや支援者、過労死弁護団の先生方、労働問題に関心を持つ研究者や市民など、50名近くが参加されました。

カンさんは、韓国においても日本と同様の長時間労働が存在し、そこでは過労死や過労自殺も発生していることを、現代製鉄やロッテ百貨店等で生じた最近の事例とともに報告しました。しかし、韓国では遺族を横につなぐネットワークが日本のようには存在せず、この問題に対する社会的関心もそれほど高まっていません。今後は遺族や労働問題の専門家、弁護士、労働組合等が力を合わせて、過労死・過労自殺の労災保障と予防活動に取り組む仕組みを作っていくことが必要だと、カンさんは主張し、今後、自身が研究と活動を通じて問題解決に貢献していきたいと述べました。

会場に参加していた方々からは、カンさんの報告内容に大きな関心が寄せられました。特に、長時間労働＝勤勉、すなわち美德と捉える社会的風潮や、低い基本給を残業で補わなければならない給与構造など、韓日に共通する問題点があることが、強い印象を持って受け止められたようです。『産経新聞』や『毎日新聞』も当日の様子を記事に取り上げ、カンさんの報告内容が誌面で紹介されました。

[http://sankei.jp.msn.com/west/west\\_affairs/news/130621/waf13062107000002-n1.htm](http://sankei.jp.msn.com/west/west_affairs/news/130621/waf13062107000002-n1.htm)

\*リンク切れの際は、ご容赦ください。

#### (1) DMDP 制度とは

Dual Master's Degree Program (修士課程共同学位プログラム)の略称で、このプログラムは、本学での2年間の博士前期課程在学中にランカスター大学(イギリス)又は中央大学校(韓国)に正規留学(1年間)することによって、最短2年間で両大学から修士号を取得できる制度です。今年度も1名中央大学校に派遣予定です。DMDPについて興味を持たれた方は産業社会学部事務室(大学院担当)までお問い合わせください。